



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレ ター 第527号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン
ターニューズレター 第527号. 京大東アジアセンターニューズレター
2014, 527

ISSUE DATE:

2014-07-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188959>

RIGHT:

目次

- 中国経済研究会のお知らせ
- アジア中古車流通研究会のお知らせ
- 国際学会参加記
- 上海街角インタビュー ③⑨
- 【中国経済最新統計】

「中国経済研究会」のお知らせ

2014年度第3回（通算第42回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2014年7月15日（火） 16:30－18:00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下1階みずほホール

報告者： 李 妍蓉（京都大学大学院農学研究科博士後期課程）

テーマ：「中国農村での垂直的組織化と農地への投資行動—湖南省を事例として—」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2014年度における開催（予定）日は以下の通りです。

前期：~~4月16日（火）~~、5月20日（火）、6月17日（火）、**7月15日（火）**

後期：10月21日（火）、11月18日（火）、12月16日（火）、1月20日（火）

（この件に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）

第 10 回 アジア中古車流通研究会

主催：京都大学東アジア経済研究センター

後援：京都大学東アジア経済研究センター協力会

2014 年 7 月 19 日（土） 13 時

於 京都大学経済学部 みずほホール（法経東館地下1階）

司会

1. 自己紹介

13:00-13:30

2. 報告

13:30-17:00

□浅妻 裕（北海学園大学経済学部 教授）

地域別にみる中古車輸出仕向け先の特徴

□塩山 和宏(JBAインドネシア 代表)

ローコスト・グリーンカーの登場でインドネシアの中古車流通は変わったのか？

3. 京都大学東アジア経済研究センター協力会について

研究会終了後 17:30-19:00 懇親会 (写楽 075-781-1335 百万遍から北 100mを西へ)

研究会,懇親会ともに出欠はとりません。事前連絡の必要はありません。

なおこの研究会は京都大学東アジア経済研究センター協力会の法人会員・個人会員のみが参加できるクローズドな研究会です。非会員で参加希望の方は塩地 shioji@econ.kyoto-u.ac.jp まで協力会への入会手続をお問い合わせください。

国際学会参加記

2014 年 7 月 6-8 日に、ハンガリーのブダペストで開催された The Society for the Study of Emerging Markets (SSEM) の Euro Conference 2014 に参加・報告をしてきました。開催主体は上記の SSEM という学会で、新興国・途上国経済の主に金融・貿易面の研究に焦点を当てている国際学会組織です。その感想などを備忘録として記しておきたいと思います。

第一に、この学会組織名が表しているように「途上国」や「中進国」という名称よりも「新興経済」という名称でのグルーピングが好まれる場合がよくあるということです。この SSEM の欧州会議は典型的な例で、主として中東欧・南欧（のつながりで中南米も）・トルコ経済の研究が報告されます。中東欧・南欧・トルコは 1 人当たり GDP1 万ドルを基本的に超えていますので「途上国」と呼ぶには違和感があり、しかし本当の先進国経済の到達水準には遠く及ばず、常に先進国との関係やそれへのキャッチアップを意識せざるを得ない状況にあることも確かです。SSEM は別に欧州だけに限定された学会ではありませんが、その名称はその地域での感覚を採用しています。また旧社会主義国の中東欧経済も、現状は「移行経済」ではなく、市場経済化していることは当然で先進国を追いかける立場にある「新興経済」であるという自己認識があります。そこではアジア経済の多くも「新興経済」に含めて考えられています。

第二に、そのような欧州及びその周辺の新興経済からみると、ユーロ通貨圏の動向及びそれと当該国経済の関係をどのように設定するかが研究者の大きな関心の的になっています。具体例として典型的なのが、今回の開催国であったハンガリーで、(南欧諸国とは違い) ユーロ通貨圏には加わらず、多分に自国通貨フォリントの為替レートを低く設定し、外国直接投資を呼び込み主としてユーロ通貨圏の先進国への輸出振興を図る、という発展戦略をとっています。自動車産業がその代表例です。フォリントの為替レートを低く設定するというのがポイントで、現在はユーロに対して変動幅を限定した管理ペッグで低めの設定をしており、海外から訪問したものには欧州にしてはかなり物価を安く感じます。更に将来かなりの可能性で起こるであろう南欧諸国 (PIGS) のユーロ通貨圏からの離脱は、ユーロの上昇＝フォリントの相対的下落を招き、ハンガリー経済にとっては外国直接投資・輸出という発展戦略の追い風になり望ましいことであるというハンガリー人の報告さえありました。我々東北アジアの経済も経験した、自国通貨を安く設定する為替レート誘導の下で、製造業による経済発展を図るという戦略を、特殊なユーロ通貨圏との関係の中でおこなっているとまとめることもできます。

第三に、拡大欧州新興経済のなかでは、最大の人口 7 千万人以上を抱えるトルコの存在感が大変大きいということです。トルコも丁度 1 人当たり GDP1 万ドル水準で、全体の経済規模の大きな新興経済です。今回の SSEM 欧州会議でもトルコの研究者の参加数やトルコ経済を扱った報告がかなりの数にのぼっていました。また人口規模が大きいということは、研究のトピックスも幅広くなるということで、トルコでの貧困削減のための扶助が被扶助者の労働市場参加率を低下させてしまうというジレンマを計量的に分析した途上国的状況を扱った研究から、銀行の効率性測定のような先進国の研究としてもよくあるタイプの研究までありました。私自身は、中国の民族対立の根幹にある漢族・少数民族間の経済格差問題解消のための政策提言に向けての、新疆ウイグル自治区の少数民族企業と漢族企業を対比させた企業金融に関する計量分析を報告しました。トルコの研究者達は、トルコ系民族であるウイグルその他の中国少数民族の問題を日頃から意識しているのか、欧州から遠く隔たった地域の研究に関心を示してくれたことが意外でもあり嬉しいことでした。5 月に環太平洋という括りでハワイにておこなわれた国際学会で、同様の報告をしたときにはこのトピックの意義自体が伝わりにくかったのとは対照的でした。

(文責：京都大学東アジア経済研究センター 矢野剛)

上海街角インタビュー ㊟

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

“中国人の好きなスポーツ”

中国のスポーツと言えば卓球（中国では卓球は玉突きのことだが、ここでは日本式に卓球と表現する）、毛沢東主席も愛好者だったと言われ、世界選手権等ではダントツに強い国民的スポーツだ。しかし、上海では公園で子供たちのサッカーや老若男女のバドミントンはよく見るが卓球はほとんど見ない。一般庶民はどのようなスポーツをしているのだろうか？ また、テレビではクラブチームによるプロバスケットボールの放映がある。見るスポーツとしては何が好まれているのだろうか？ 老若男女に聞いてみた。

1. 30 歳代前半の女性

普通の勤め人のもっともポピュラーなスポーツはジョギング、サイクリング、そしてバドミントンです。バドミントンは公園や地区の体育館で出来ます。私はウォーキングをするだけです、私の友達は何週末、バドミントンをやっています。友達の中にはヨガやエアロビクス、ラテンダンスをやっている人もいます。

見るスポーツではバスケットボールが好きです。私の主人はサッカーを見るのが好きです。

上海でもテニスの国際大会が開催されるようになり、テニス人口も増えました。プールも増えたので若い人は水泳も好きです。子供はローラースケートも好きですね。

2. 50 歳代前半の男性

中国人はスポーツをあまりやりません。学校では体育の授業があり、毎週 2 回やっていますが、卒業すると殆ど人は何もやらなくなります。一部の条件の良いマンションに住んでいる人は、ジムやプール、テニスコートがあるので運動をやるチャンスがありますが、一般庶民は公園でジョギングするか、おばちゃん達はダンスを楽しんでいます。

一般受けするスポーツは、

＊バドミントン：これはアパートの下で簡単に出来るので大人と子供の楽しみです。

大人同士では公園か地区の体育館でやります。

＊卓球：卓球室がないと出来ないなので簡単には出来ません。工場の娯楽室でやるケースが多いです。

＊テニス：テニスコートのついたアパートに入っている人しか出来ません。クラブに入ると高いです。

＊ウォーキング：これは一番普及しています。50 代以上の男女がやっています。

＊水泳：公営プールに近い人や、アパートに設備がある人はやれますが一般的ではないです。民営プールは高いです。

＊バスケットやサッカー：子供が遊びでやる以外は本格的には出来ません。

まとめて言えば、農村ではスポーツをやる人は基本的にはいない。都市部では興味があっても場所がないし、お金もかかるからやる人は少ないです。国有企業では福利厚生の一環で会社がお金を出して場所を確保し、興味のある人が参加できるようにしているところがあります。

私ですか、スポーツは殆どやりません。やる必要もないと思っています。通勤に自転車を使っているの、毎日運動しているのと同じです。

見るスポーツは、たまにサッカーを見ますが、時間があれば麻雀をやったほうが楽しいです。

3. 20 歳代後半の女性

中国人は普段はあまりスポーツはやらないと思います。やるのは週末です。

私も週末にはよくバドミントンをします。でも、場所と相手が必要なので、友達が体育館の予約をとってくれたときにやります。

見るのはビリヤードが好きです。ビリヤードもスポーツでしょう？ 主人はサッカーを見るのが好きなようです。卓球もよく見えています。

4. 40 歳代中頃の女性

以前はスカッシュをよくやりましたが、今はゴルフにはまっています。

一般的に中国人は卓球とバドミントンをやるのが好きです。中国の国技のようなものです。学生はサッカーとバスケットボールが好きようです。

見るスポーツはアメリカンフットボールとテニスが好きです。

5. 60 歳代の男性

僕らの年代ではウォーキングかゴルフしかやるスポーツがありません。毎日 30 分アパートの遊歩道を歩き、週 1 回ゴルフをしています。

テレビで見るスポーツはゴルフです。

6. 40 歳代中頃の女性

スポーツには興味がありません。続けてやっているのはウォーキングだけです。ほぼ毎日、30 分くらい歩いています。歩くのはアパートの敷地内の通路です。

見るスポーツにも興味がありません。

7. 40 歳代前半の男性

以前は釣りをやりましたが、今は何もやっていません。日系会社に勤めているのでゴルフを勧められていますが、まだ始めていません。

スポーツを見るのは興味がありません。

中国体育用品連合会の統計データによると、昨年の中国スポーツ用品業界（スポーツウェア、スポーツシューズ、運動器具、その他関連用品の製造・販売）の生産高は、前年比 7.8% 増の 2087 億元（約 3 兆 4051 億円）に達した。しかし、業界の成長率は、3 年連続で二ケタには届かなかった。内訳を見るとスポーツウェア、スポーツシューズの業績が低迷したという。最近の大気汚染の深刻化で屋外スポーツ（ジョギングを含む）を楽しむ人が減ってきているのだろうか？

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億 _米 ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2					1549	20.3	24.9				
10 月		13.2	17.2	5.5	34.1	170	15.8	29.1	-0.6	8.7	16.7	14.1
11 月		12.4	17.3	4.2	21.4	145	13.8	22.6	-12.9	-9.8	16.2	14.0
12 月	8.9	12.8	18.1	4.1	5.7	165	13.3	12.1	-15.4	-12.7	17.3	14.3
2012 年						2303	7.9	4.3				
1 月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2 月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3 月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4 月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5 月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6 月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7 月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8 月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9 月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10 月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11 月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12 月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0

2013 年												
1 月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2 月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3 月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4 月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5 月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9 月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10 月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11 月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12 月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014 年												
1 月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2 月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3 月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4 月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5 月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。
出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。